

Case Study

シェイク研修 導入事例 取材レポート

vol.21

ヤマハ株式会社

株式会社ヤマハビジネスサポート
HRD事業部 課長代理
筑紫 和洋 様

※ヤマハ株式会社の採用・研修窓口は株式会社ヤマハビジネスサポートが担当



音楽を愛するメンバーが集まるヤマハ株式会社。社員の会社へのロイヤリティは高いが、日常の業務の中では、次なるステージにチャレンジするマインドが育ちにくいことが懸念される。「変化の時代だからこそ、自ら自分の道を切り拓いていける強い社員になってもらいたい」と語る筑紫様に、研修実施の様子についてお話を伺った。

会社プロフィール

1997年10月に創業者山葉寅楠が設立。「感動を・ともに・創る」を企業理念に、音・音楽をコアとした多彩な事業をグローバルに展開。また、設備音響、AV機器、携帯電話の音源に用いられる半導体、ゴルフ、リゾート、リビングなど、世界最大の総合楽器メーカーに留まらず多様な事業を展開している。

実施概要

ヤマハ株式会社、株式会社ヤマハリビングテックの入社4年目の社員88名に、キャリアアップ研修として、「自己成長DRIVE」研修と「自律的キャリアDRIVE」研修を2日間にわたり実施。

shake inc.

若手・中堅社員研修についてのお考えをお聞かせください。

入社4年目となると、担当職務の仕事の本質やG-PDCAサイクルの基本は理解している年次だと思えます。そして、今後、その職務の役割を後輩に伝え、他部署へのかかわりを広げ、中心となっていく時期でもあります。その一方で、目の前にある仕事の忙しさに時間を忙殺されてしまうことが日常となりがちです。課題として彼らに感じていたことは、激しく変化する社会環境、市場環境の中にもかかわらず、目の前の仕事や自分のいる場所・領域だけがヤマハ(会社)であると思い、まるでタコツボを覗くかのように入り口を狭めてしまって、内省、成長をする機会を失ってしまっていないだろうか

◎ 事例紹介 — for 若手・中堅社員

自己成長DRIVE / 自律的キャリアDRIVE

自己を再認識し、一段上の仕事を目指し、自らキャリアを築くマインドをセットする若手・中堅向けキャリア研修。

ということでした。

4年目は、少しずつ広い視野で物事を見つめ直す時期であり、新たな視座でこれからの見据えて、「ありたい姿」を再設定するタイミングだと思えます。ある枠組みの中ではしっかり自己完結ができるものの、たくさんあるはずの選択肢を早くから狭めてしまうと、せつかくの可能性が育たなくなってしまう。加えて社風なのか、当社は安定志向が強い社員が多いのですが、世の中の流れや環境が変わっていく中で、今、自分が置かれている立場や入社からの自分を振り返り、ただ仕事をこなすのではなく、今後のキャリアや、なぜヤマハで働くかという点をしっかりと考えて、何をすればよいかを見つめ直し、自身の「枠を超える」きっかけを掴んでほしいと考えています。

今回、シェイクの研修を導入いただいた決め手を教えてください。

変化に対応することが自律につながる

これまでは、会社や社会が安定(=キャリア)を提供してくれていましたが、今後は誰かが与えてくれるのではなく、自らでキャリアを切り拓く世の中に変化してきました。キャリアアップ研修は、何年間も行っている研修で、昨年までは別の研修会社をお願いしていましたが、社会環境、時代の流れに即した内容で、もっと良いものはな

いか模索していました。

その中でも、シェイクの提供している自律やキャリアの考え方が当社の求めるキャリアにマッチしていました。変化に対応する力の軸となるもののひとつに、『自律』があると思えます。変化が激しい時代の中、当社の社員は、日々の業務に追われてしまったり、なんとなく安住してしまったりで、自分を見つめ直す時間を取れずに社外に出たときの市場価値を考える機会を持つことができないケースが多いようです。そういった時代にこそ自分を高めたり、今より1ランク上を目指したキャリアを描くこと、自ら自分の道を切り拓くことが自律であるといったシェイクの考え方に、共感いたしました。

キャリアとは人生のようなもので、頭で分かって作るものではないと思います。取り巻く環境が変わる中で、目

る中で単純に上辺だけで表面的に相手のことを考えるのではなく、相手の成長機会を真剣に考えていることが、研修中の発表のコメントからも伝わってきました。

内容に関しては、1日目と2日目それぞれポイントになる部分があつくと感じました。例えば、自分のイメージを何かに例えて伝えてもらうこと(メタファー)で、自分が気づいていなかった自分の特徴に気づき、今後のキャリアにいかすというワークがありました。直接フィードバックをされるよりも、客観的にとらえることができ、グループのメンバーからの言葉をすんなりと受け入れ、納得感を得ることができたようです。同期だからこそ言い合えるというのも効果としてあったと思います。また、自分が大事にしている価値観に気づくワークは、とても新鮮で

標を立てることは重要だけれど、目的合理にキャリアを考えてしまうとあまりうまくいかないのではないのでしょうか。それに対して、幅広いゆとりをもって、相手との信頼関係を築きながら、信じてやり続けることも大切だと考えています。今の世の中、自分自身を持っているだけでは十分ではありません。人とかかわりを持って、お互いの信頼関係を築き、他者からのフィードバックをもらいながら自分の道を切り拓き、変化に対応しながら成長することが『自律』だと思えます。既存の概念をベースにしている研修会社が多い中で、シェイクは、今の社会環境に合わせて、ゼロベースの視点で研修を作っていました。シェイクの研修は、既に新人研修でも導入をしておりましたので、そのプログラムの内容、講師ともに信頼を置いていたことも決め手となりました。

研修を導入してみたいか教えてください。

研修は、どのワークも取り組みやすく、また、受講者にもとても良いタイミングだったようです。この2日間を受講者自身が価値あるものにしようという様子が、取り組む姿勢から伝わってきました。一緒に入社した同期と実施できたことや、日々の業務を支える上司からの手紙(※上司からの手紙はカスタマイズになります)もとても心に響いたようです。また、グループワークをす

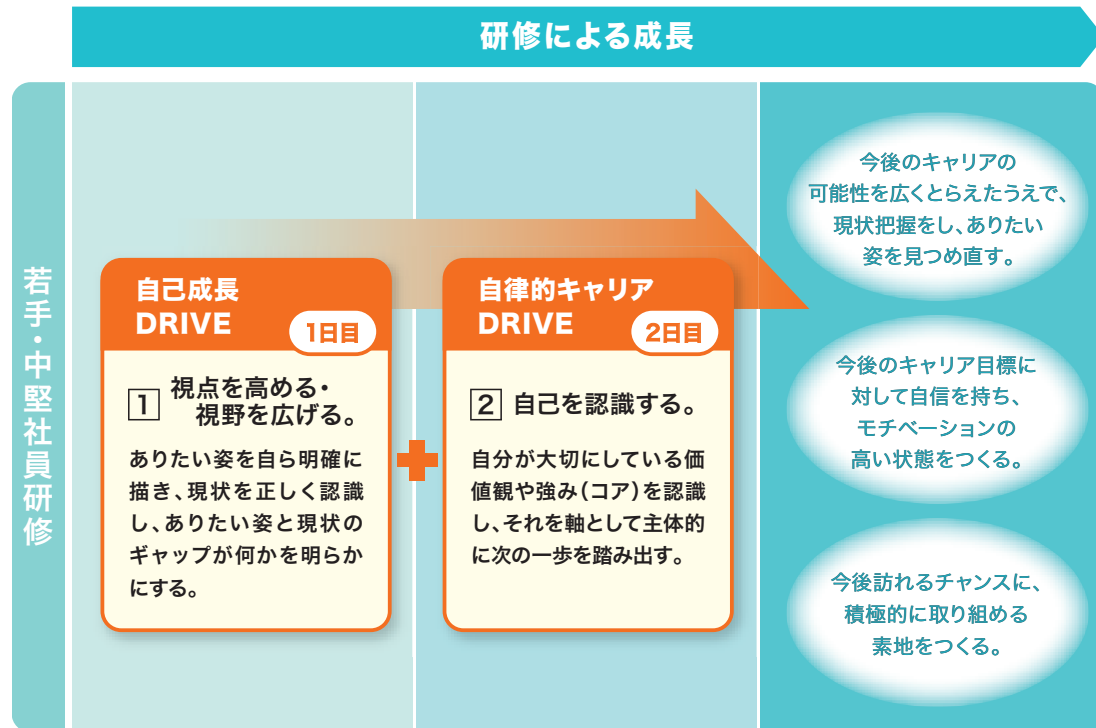
した。人によって、大切にしているキーワードが異なっていることを認識すると同時に、自分のコアが可視化できるのが良いと思います。自分ひとりの頭で考えるより、メンバーと大切にしているキーワードを交換することで、相手の価値観、考え方が分かり、思考・視野が広がりますよね。もちろん、すべてのワークにおいてプライバシーに関わる部分もありますから、実際に書けることと、書けないことというのがあると思います。ただ、書けなかったところは、自分で気づいて、頭の中で描けていけばよいと思います。

受講者の反応はいかがでしたか?

受講者のアンケートにもあるように、「疲れた」とか「大変だった」という表面的なコメントではなく、今後に向けての前進が伺えるようなコメントが多くありました。講師の熱意ある講義と受講者の積極的な取り組み姿勢の結果だと思えます。非常に充実した2日間となり、とても深い学びを持ち帰ったようです。ただ、研修を通して最も伝えたかったことは、4年前に自分の意志で入社したヤマハで楽しく働くことで、より元気になって、夢を叶えてほしいということです。それぞれの努力次第ですが、仕事が行き詰まったり、悩んだりしたときには、今回の研修を思い返し、次のステップに向けて、たくましくがんばっていく姿を期待しています。

プロジェクト
全体像

「自己成長DRIVE」研修と「自律的キャリアDRIVE」研修を組み合わせ、今回の事例をご紹介します。



アンケート
より

研修に参加した方々にアンケートに答えていただきました。

受講のタイミングが良かった

- ちょうど悩んでいた時だったので良いタイミングでした。いろんな業種が並んでいたら現職を選ぶだろうけれど、本当に自分に向いているかは少し自信が無くなっていたところだったので、自分の過去、現在のつながり、キーワードで見つめ直すと、やはりここ(現職)が向いていると、自分を信じるきっかけになりました。あとは自分で設定したゴールに対して、目標を達成していくばかりなので、実行に移したいと思えます。

同期のメンバーと受講できてよかった

- 普段は自分の仕事について目標は何なのか、自分にはどのような行動が必要なのかを常に考えていますが、研修を通じてみんなから意見・アドバイスをもらったり、自分から人にアドバイスすることによって、普段だと自分で気づいていない新しいこと・新しい自分を見つけることができ大変良かったと思います。
- 自分を見つめ直す機会を与えられたのは一番ですが、近しい同期のメンバーの意見・思いを率直に聞け、共有できたことがもっとも大きな収穫だった。

自分と他人を見つめる中で新たな発見があった

- 今回の研修は自分のキャリアアップへ生かすことが大きな目的でしたが、自分と他人をしっかりと見つめること自体、今後の業務にも生かせると思います。
- 改めて自分、他人をしっかりと見つめることで、新たな自分や、今後の目標が再認識できました。

自分の軸、今後の方向性が見えた

- ぼんやりしていた自分の軸がはっきりし、今後の方向性が見えてきた。この研修を無駄にしないようにしたい。
- 自分にとって譲れない価値観を認識することができたのは大きな収穫であったと思う。今後ともこの価値観を持ちつつ、1日1%の向上をもって理想の自分に近づいていきたい。

棚卸しができ、自己を再認識できた

- 自分の夢はちゃんと明確にあるのに、それを実現させるための活動が進んでいない、という現状を改めて再認識しました。